

つゆ
梅雨の季節となりました。

ジメジメとして何か心もすっきりしない方もいらっしゃるかと思います。日本では地域にもよりますが、五月初旬から七月末までの一ヶ月半位の^{すえ}間、雨が降り続きます。

仏教発祥の地インドには^{うき}雨季があります。こちらは六月から九月ころと長い期間です。ただし、日本の梅雨のように延々と一日中雨が降り続くのではなく、一時間程のスコールが一日に数回あり、それ以外は曇っていて湿度が高く、気温も三十度をこえるものとなります。

お釈迦さまは弟子たちと共に、日頃、多くの人々に教えを伝えるために旅をしていましたが、雨季の間は一つの場所にとどまって生活をし、精神を集中したり論議をするなど特別な修行期間としました。雨季に移動をすると、草や木、虫などを踏み殺してしまうおそれがあるからだという話もあります。この期間を「^{あんご}安居」、もしくは^{うあんご}雨安居といえます。雨安居の最後には^{あんごちゆう}安居中のあやまちを反省する事も行われていました。

「安居」の語源は「雨季」を意味する言葉なのだそうです。

お亡くなりになるまで各地を廻り説法をし続けたお釈迦さまが、年に一度、弟子たちと三ヶ月間過ごしたこの「安居」は、修行の期間としてその後中国を経て、日本へと伝わり、雨が降る夏だけでなく、冬にも行われるようになりました。

それぞれ、夏は夏安居（げあんご）、冬は冬安居（とうあんご）と呼び、禅宗の流れをくむ曹洞宗においては、この一定の修行期間を一層大切にいたします。

さて、お釈迦さまの時代より、雨の多い時期は出歩かずに修行をしていた訳ですが、日本には^{せいこうどく}晴耕雨読という言葉があります。晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家にこもって読書するという意味です。

雨で外出もためられるこの梅雨の時期ですが、外出できないからこそその有意義な時間と受け止め、自分を見つめ直すひとときとしてみてはいかがでしょうか。